

第105回二科展 巡回展(大阪展)



▲ 大阪市立美術館と二科展看板

■ 大阪巡回展は10月26日より11月7日まで、天王寺の大阪市立美術館で開催しました。絵画207点、彫刻11点、デザイン178点、写真222点の総出品点数618点の展示となりました。

■ コロナ第五波の感染者の減少傾向がある中での開催でしたが、やはりマスクに三密回避といった感染予防の緊張感のある展覧会となりました。総入場者は14278人と一昨年（15827人）と比べ減少はありましたが、コロナ禍の中での開催としてはまずまずの入場者であったように思います。

■ 本年度も、例年の通常開催と同様、会期中のミニコンサートや、絵画部による二科出品希望者のための「ワンポイントアドバイス」を開催。併催の「第70回こども二科展」や、デザイン部主催の「Web全国ポストカードデザイン大賞」などの展示も加わり、大阪の秋の文化イベントとして幅広い世代に向けてアピールいたしました。

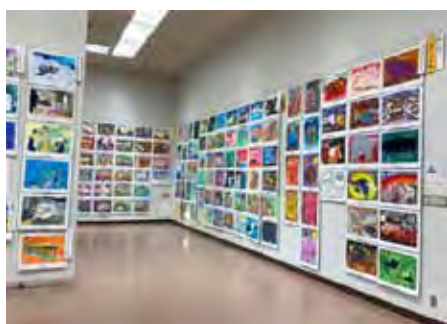
■ 絵画部では通常、全国巡回作品の全てと、巡回にならない京滋を含む地元会員の大作を展示しています（点数の内訳は全国巡回作品108点、関西及び京滋の会員大作10点、会友23点、一般66点）。今回は、13名の地元同志たちの受賞、推挙を得ることができたことが開催への大きな励みになったと思います。

■ 地元で親しまれてきた大阪巡回展ではありますが、大阪市立美術館の改修工事のため、来年度からしばらくは兵庫県の尼崎市総合文化センターへと会場を移すこととなります。会場アクセスをはじめ、展示スペースによる展示制約など第106回に向けての課題が沸き上がって参ります。場所が兵庫県に変わることとなりますが、これまで以上に地元関西に愛される展覧会になるよう頑張っ参りたいと思っております。
(絵画部会員／高畑 彰)

▼ 絵画部展示会場 ▼



大阪巡回展のチラシ▶



▲巡回展と同時開催された「こども二科」展示会場風景



▲会期中に開催されたミニ・コンサート風景



▲ロビー風景

■ 彫刻部

出品点数11点（会員9点、会友2点）

コロナ禍の影響で巡回展としての開催は一年ぶりとなりました。

彫刻部の会場は関西支部の会員・会友の作品と全国巡回作品とで構成されます。

今回はそれに加え、東京本展の彫刻部の会場風景を映像でお見せするという初めての試みをしました。

一年ぶりの会場は、出品点数11点と104回展より4点少なく一般出品（入選作品）が0点という少しさびしい展示点数でした。それでも、鑑賞者の方々は一点一点の作品に丁寧に向き合っていた印象を受けました。また、初の試みであった本展彫刻部会場の映像にも興味深く立ち止まり観て行かれる方が多く次回以降も続けられたら良いかと思いました。

（文責 彫刻部会員／橋本和明）

▼ 彫刻部展示会場 ▼



■ デザイン部

昨年に引き続きコロナ禍におけるアクシデントは、デザイン部に於いてもかなりの打撃を受けました。展示を見る限りは例年とさほど変わらないのですが、応募から審査、展示に至るまで様々な点で大変な試練を受けました。だからこそ今回の展覧会は一層意義深く、今後の教訓になったかと思えます。

展示構成は、●A部門＝自由テーマポスター(B1) ●B部門＝特別テーマポスター／「クールチョイス」(B1) ●C部門＝自由テーマイラスト(B2) ●D部門＝フリースタイル(B2)の4部門に分かれています。

特にB部門の特別テーマについては、前回に引き続き環境省後援による喫緊を要する地球環境問題をテーマにした訴求ポスターを応募・展示しました。

またD部門は、昨年まで小型グラフィックという括りで募集していました。しかし、出品作品は予めからイラスト部門と類似点が多く、ほかに未消化作品や斬新さに欠ける等、D部門としてのカテゴリーの意図性が感じられませんでした。そういった観点から、今回からフリースタイルとしての自由な発想で、創造性に満ちた作品部門となるようリニューアルし、今後に期待をかけたところです。

大阪展における展示数は、全国巡回作品144点(一般68点、会友29点、会員47点)及び、関西地区作品34点(一般19点、会友6点、会員9点)の計178点を展示しました。

また、本来なら18回を迎える全国ポストカード大賞は、コロナ禍の緊急事態宣言で、審査、展示等の先行きが全く不透明になっていました。しかし、ここで募集を取り止めると2年間の空白が生じ、イメージダウンに繋がりがかねないし、折角築いて来た実績が形骸化するといった危機意識に立ち、熟慮の末webでの募集に踏み切って二科大阪展の開催に備えた次第です。

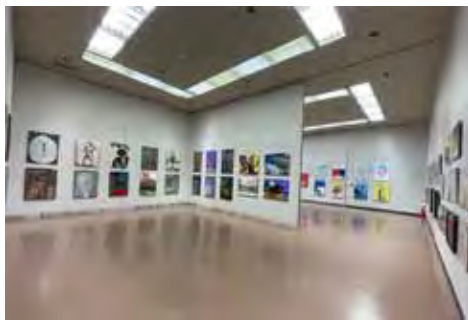
その結果、出品者からは感謝の声も有り、出品数は小・中高・一般合わせて1013点(入選数151点)と例年の半数でした。なかなかの力作揃いで、今後の展開に確かな手応えを感じました。展示についてもパソコンに入力した入選作品のデータを、B1パネル10枚に約15点ずつプリントアウトして展示しました。思った以上の展示効果が有り、さも手描き作品のような迫力、スッキリ感で今後のweb作品応募のあり方も考えさせられました。

誰もがこのコロナ禍の困難を乗り越える為に、絶え間ざる忍耐力が必要とされています。我々デザイン部も一丸となって多くの方々のご期待に添えられるよう頑張っていく所存です。

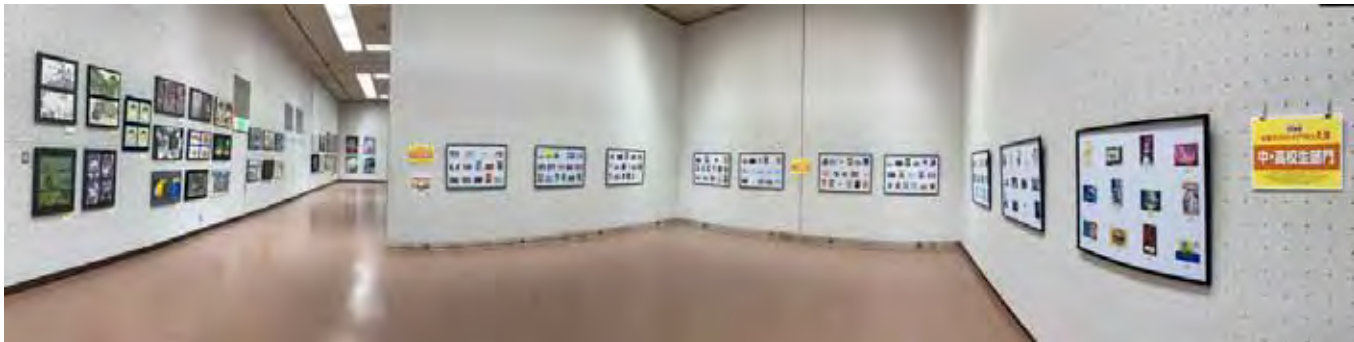
(二科会デザイン部関西地区事務局／田野 勝)

▼ デザイン部展示会場 ▼





▲ デザイン部会場風景とweb全国ポストカードデザイン大賞の展示風景 ▼



■ 写真部

コロナ禍の中、国立美術館での審査も無事に終え、大阪での巡回展を日程通り開催できました。伝統ある二科展を楽しみにされている来場者の皆様には感謝、感謝です。会期中、写真部は2回のギャラリートークを開催し、多数の写真愛好家が熱心に耳を傾けておられました。来場者の皆様は熱心に各部を回られご高覧頂きました。

これからも未来ある写真を創作すべく、なお一層の努力が必要だと感じております。

(写真部大阪支部／水谷勝昭)

▼ 写真部展示会場 ▼

